

製品名: Slit2 (17G12) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe17972**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200
分子量	170kDa

抗原情報

遺伝子名	SLIT2
別名	Drad 1; Slit3; Slit homolog 2 (Drosophila); Slit homolog 2 protein C-product; Slit2 ;
遺伝子 ID	9353.0
SwissProt ID	O94813
免疫原	ヒト Slit2 の合成ペプチド

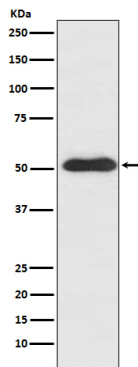
背景

細胞移動における分子ガイダンスキューとして機能すると考えられており、機能はラウンドアバウト相同受容体との相互作用によって媒介されるようです。細胞移動における分子ガイダンスキューとして機能すると考えられており、機能はラウンドアバウト相同受容体との相互作用によって媒介されるようです。神経発生中は、神経管の腹側正中線での軸索ナビゲーションと、異なる領域への軸索の投射に関与しています。SLIT1 と SLIT2 は、嗅球から投射する軸索が不適切に正中線を横切るのを防ぐ反発シグナルとして作用することにより、前脳の正中線ガイダンスに不可欠と思われる。脊髄の発達では、ネトリンへの応答を調節することにより、交連軸索が底板に到達したら、それを誘導する役割を果たしている可能性があります。in vitro では、NTN1 の誘引効果はサイレンシングされますが、成長刺激効果はサイレンシングされず、サイレンシングには ROBO1-DCC 複合体の形成が必要です。脊髄正中線を横切った後の軸索反発に関係している可能性がある。in vitro では、正中線を横切った交連軸索のみが SLIT2 に反応した。発達中の視覚系では、視交叉を通過する前と通過後に網膜神経節軸索を適切な経路に沿わせる反発力を与えることで、網膜神経節軸索に対する反発力として機能すると思われる。in vitro では、網膜神経節細胞の成長円錐を潰して反発する。CNS 感覚軸索の分岐と樹状化、および神経細胞の移動に役割を果たしていると思われる。in vitro では、Slit ホモログ 2 タンパク質 N 産物は嗅球 (OB) 軸索を反発するが、Slit ホモログ 2 タンパク質 C 産物は反発せず、背根神経節 (DRG) 軸索は反発せず、OB 成長円錐の潰れを誘発し、DRG 軸索の分岐を誘発する。白血球の移動の調節に関与していると思われる。

研究分野

-

画像データ



SH-SY5Y 細胞溶解物における Slit2 発現のウェスタン プロット解析。